

報告事項ケ

令和6年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について

令和6年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について、別紙のとおり報告します。

令和6年7月31日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

令和6年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について

令和6年7月31日

鳥取県教育センター

- 1 目的 島根大学教育学部附属教師教育研究センターと鳥取県教育センターがより実務者レベルで連携し、鳥取県内学校現場の現状を踏まえた教員支援と人材育成に向けた具体的アクションを協議する。（令和元年8月に設置）
- 2 日時 令和6年7月23日（火）午後4時15分から5時15分まで
- 3 場所 鳥取県教育センター
- 4 出席者 島根大学教育学部副学部長兼附属教師教育研究センター長 他6名
鳥取市総合教育センター所長
鳥取県教育委員会事務局教育総務課参事 他1名
鳥取県教育センター所長 他6名
- 5 内容
 - (1) 若手教員の育成について
 - 山陰若手教員交流セミナー【島根大学】
 - ・山陰両県の採用5年目までの若手教員が集まり、指導力の向上及び悩みや考えを共有しながら、教員相互のネットワークの構築を目指すもの（希望制）
 - ・年間2回実施（8月は対面、12月はオンライン）
 - ・鳥取県から13名希望（7月23日現在）
 - 本年度の初任者訪問【鳥取県教育センター】
 - ・初任者の所属校での様子とメンタル面の状況把握と支援及び指導力向上が目的
 - ・授業実践又はメンターチーム研修の参観及び初任者と指導主事の1対1での協議
 - ・島根大学出身者への島根大学教職員（主にゼミ担当）の同行訪問
 - ・鳥取市については、鳥取市総合教育センターが実施（年間2回）
 - 管理職経験のある課長補佐や学校支援アドバイザーが市町村教育委員会、学校と連携して初任者、2年目、3年目の教員をサポートする体制づくり【鳥取県教育センター】
 - 心の健康相談員を増配置し、若手教員の実態把握・メンタルサポート等の支援【鳥取県教育センター】
 - (2) 教員養成での取組について
 - とっとり未来教師セミナー【鳥取県教育センター】
 - ・鳥取県で教師をめざすという志をもった学生等を対象として、教師の仕事や鳥取県で働く魅力、教師に求められる資質などを学び、教職に向かう情熱を高めることを目的とする
 - ・8月にオンラインで実施
 - ・大学生等に鳥取県の教師に関心を持ってもらい、教師を目指す意識を醸成する
 - ・年齢の近い先輩教師（とっとり教採アンバサダー）からアドバイスを受ける

○1000時間体験学修【島根大学】

- ・子ども、地域、学校などに関わる教育体験活動を1000時間行うことによって、教員に求められる「教育実践力」を養うもの

○採用までに取り組むこと

- ・初任者の困り感や若手教員の実態から、島根大学、鳥取県教育センターができることを提案していく。例えば、大学では、学級経営のことなど学校現場に出たことを想定したことを学ぶ場を設けていく。

(3) 連携講座「しまだい学校教員研修」【島根大学】

- ・一人一人の教員が自律的に学び続けていく機会を充実するために、令和5年度から島根大学が山陰両県の教育委員会と連携し、教員免許更新制の下で培ったノウハウを生かした研修講座を開設。全34講座あり、各講座10名の受講が可能。

〈受講状況〉

- ・現時点では、鳥取県からの受講希望者は89名という状況。2年目に入り、昨年度よりも受講希望者が増加している。
- ・今後も鳥取県の受講者のニーズに合わせて、受講定員を調整していく。(特に特別支援教育の分野など)

(4) その他

○文部科学省事業「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化」について

- ・大学入学前から教員採用に至るまでの一貫した取組を促進し、地域や現場ニーズに対応した質の高い教師を継続的・安定的に養成し、確保するための取組に対しての支援を行う。
(①高校生に対する入学前プログラムの実施 ②大学入試(総合型選抜)に地域教員育成枠を設定 ③教員採用試験での特別枠の設定など)

6 主な意見・提言

○連携強化と教員支援・人材育成に向けた具体的取組

- ・【島根大学】初任者へのアンケート結果より、「授業についての困り感」に加え、「児童生徒との人間関係づくり」、「学級経営に対する困り感」が目立つことから、大学においても指導の充実に向け検討する。
- ・【鳥取県】授業の土台となるのは学級経営なので、大学の授業やゼミの中にも学級経営や学級集団づくりを学ぶ場を充実していただければありがたい。
- ・【島根大学】初任者研修において、島根大学出身者への島根大学教員の同行訪問を本年度も実施する。実態の把握とともに、悩みや困り感に応じた助言や支援を行い、初任者の意欲向上につなげる。また、島根大学卒業の講師の所属校訪問も行う。これについては、島根大学と各市町村教育委員会とで連絡・調整を行い実施する。
- ・【鳥取県】NITS(独立行政法人教職員支援機構)の研修動画を案内するなど、採用前に学ぶ機会を提供していきたい。
- ・【島根大学】訪問による聞き取りを大学カリキュラムに活かしていく。
- ・【島根大学】1000時間体験学修の取組が、県内の各地域において、それぞれの方法で広がりを見せている。学生段階で児童生徒や教職員と関わる機会や学校の状況を知る機会となり、有効である。
- ・【鳥取県】教師のウェルビーイングが子どもたちの幸せにつながるので、学校現場の教師が生き生きと働くことのできる場をつくっていきたい。